

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所名	グループホーム ひまわりの家
日付	平成16年7月26日
評価機関名	社会福祉法人 岡山県社会福祉協議会
評価調査員	病院での老人性痴呆疾患専門相談チーム員歴 5年 特別養護老人ホームでの痴呆性高齢者介護歴 3年
自主評価結果を見る（事業所の自主評価結果にリンクします）	
評価項目の内容を見る（岡山県の定めた評価項目へリンクします）	
事業者のコメントを見る （評価結果に対する事業者の改善状況についてコメントがあります！）	

外部評価の結果

講評
全体を通して（特に良いと思われる点など）
1. グループホームの中は整然としており入居者が動きやすく、大きな表示などわかりやすく、空間や環境づくりに努められている。 2. 静かな環境の中で入居者主体の生活支援を行おうと、声かけや対応などに配慮が見られた。また、入居者も職員への信頼が厚く、表情もよく、落ち着いた生活ぶりがかがわれた。 3. 職員の姿勢も献身的で生活の中でのささやかな困惑なども「ドッキリ」報告書に記入したり、頻繁に職員間で話し合ったりと、情報の共有化を図っている。これら、日々の介護の中での気づきを生かし、よりよい介護をしようと努力されていた。 4. 併設の老健施設や医院の機能を十分生かし、夜間や緊急時のサポート体制が整っている。 5. 生活記録に、一人ひとりの支援状況等の記録が細かく記入されていた。 6. 花壇や農菜園もあり、気軽に花や土に親しむことができる環境にある。
特に改善の余地があると思われる点
1. 地理的な問題もあるが、買い物や地域との交流事業などが、自然に行えるようになればよいと思われる。 2. 外出の時には、併設のデイサービスなどの車両を使って行っているため、短時間の外出はできるが、長時間の外出は難しい。 3. 生活の中でのドアチャイムの音の大きさは違和感を感じた。また、職員の声のトーンや話すスピード、支援時の速さなどにおいても、入居者が理解できたかどうか、気になるところがあった。

運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
	家庭的な雰囲気の中で、穏やかに安心して暮らしていただくことを目指している。職員は痴呆症への理解を深め、その病状を理解して生活支援を行おうと努力している。入居者一人ひとりの心身の特性を踏まえて、個人を尊重し、有する能力に応じて、生活が主体的になるように工夫されている。		

生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間づくり		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の環境づくり		
4	建物の外周や空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
	随所にイスやソファを置き、ホールの一部には畳が敷かれ、掘りコタツが置かれるなど、家庭的な雰囲気をつくり出そうとする努力がかがわれる。観葉植物を配置するなど、和める工夫も見受けられた。		

ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

ケアサービス（つづき）

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
	一人ひとりの興味や関心事を理解し、常に入居者中心の働きかけに配慮している。居室はほぼ閉められており、入室時にはノックや言葉がけなど節度ある配慮ができていた。		

運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か		
	日ごろから何事においても、常に入居者に關心を向け、小さな気づきや疑問の共有化をはかり、考えながら援助していく姿勢を大切にしている。事故を未然に防ぐために「ヒヤリ・ハット」報告書を作成している。また、万一事故が起きたとしても、「事故報告書」を通して内容に応じた対応・対策を職員間に周知徹底している。		